

災害の様相——キリスト教的愛の形

ウイルバート・R・シエンク

篠原 基章・訳

【要旨】「災害」は人間が経験する不変のテーマである。聖書は自然的災害と人為的災害の両方について語っている。近代において、我々は新技術が人類の利益と破壊の両方に使用され得ることを経験してきた。罪は常に存在している。現代は人間が作り出した災害の新時代に直面している。例えば、大型の建物を破壊する威力を持つ爆破装置が開発され、またネバダ州の基地から無人操縦機ドローンを操作して遠く離れたイエメンに破壊と死をもたらすことができるのである。同じ技術は発展的な目的のために用いることも、生命と財産を奪うために使用することもできる。この講演において、様々な種類の災害によつて苦しむ人々に対して、癒しと希望をもたらすためにキリスト者が用いている手法について概観していく。具体的には、聖書、音楽などの芸術表現、修復的司法などの方法を用いて、心理的、肉体的、霊的なトラウマに苦しむ人々に癒しと和解をもたらす働きについて論じていく。キリスト者は癒しと回復をもたらす担い手として召されており、特に災害の現場においてそうである。キリスト者はキリスト教的奉仕を必要とするあらゆる機会において仕えていくための準備をしていかなければならない。

はじめに

冷戦が終結した一九八九年から一九九〇年にかけて、平和の時代に入ったという気運が世界中に広がりました。しかし、すぐさまそれが幻想であることが明らかになりました。二〇〇一年九月一日の一連の出来事は預言的です。ニューヨークの世界貿易センターの崩壊は世界中の人々の心に一つの言葉を刻み込みました。それは「テロリズム」という言葉です。

破壊と争いの現実は大し続いています。イデオロギー的熱情に突き動かされたグループは最新技術を用いて即席爆発装置 (Improvised Explosive Devices: IEDs) のような強力な新兵器を作り出す術を持っています。そのようなグループが世界のあらゆる場所で活動をしています。「自爆テロ」による攻撃についてはマスコミによって頻繁に取り上げられています。これらの行為は、人々の生命と財産を破壊し、多くの罪のない一般市民を死傷させ、地域住民にトラウマを残しています。テロという用語は古くからありますが、戦争の一形態としての「テロリズム」は新しいものです。軍事専門家はこのような形態の戦争に対峙するだけの十分な備えがなされていないことを指摘しています。しかし、軍事的テロリズムだけが社会的・経済的激変の要因ではありません。

ジェノサイド——ある特定の民族グループに属する人々に対して行われる大量虐殺——は、歴史において繰り返されてきました。国際法が大量虐殺を禁じているにもかかわらず、過去三〇年において大量虐殺を伴う戦争が幾度となく繰り返されてきたのです。一九九四年、ルワンダはフツ族がすべてのツチ族を殺害しようとした大量虐殺を伴う民族紛争によって引き裂かれました。国際連合人権理事会によれば、子どもを含む男女八〇万人（ツチ族の人口の四分の三）が

その大量虐殺によって殺害されました。ツチ族を助けようとしたフツ族も同様に殺害されたのです。

スーダンにおいて、オマル・アル・バシル大佐は一九八九年に政権を掌握しました。アル・バシル大佐は一九九三年にスーダンをシャリーア（イスラム法）によって統治するイスラム国家として宣言しました。スーダンはアラブ系とアフリカ系の二つの民族グループによって構成されています。アル・バシル政権はアラブ系の民族グループによって支配されていました。二〇〇三年から二〇〇六年にかけて、この政権はアフリカ系が多く住むダルフル地方に攻め込みました。この紛争によって、三〇万人が殺害され、二八〇万人の一般市民が住む場所を失いました。国境を越えることができた人々は、チャドで難民となりました。スーダンの軍隊は一般市民をも攻撃対象とし、人道的支援に従事する人々に対しても攻撃を行ったのです。国際社会はすぐさまこの紛争をジェノサイドであると認定しました。オランダのハーグに設置されている国際刑事裁判所は、アル・バシル大領領に対し、「人道に対する罪」で二通の逮捕令状を発布しました。しかしながら、アル・バシル大領領は巧みに逮捕を回避したのです。ダルフル地方の住民は容赦なく殺害され、砂漠へと追いやられた人々も飢えと渇きによって死んだのです。

現在、世界にはおよそ二千万人の難民がいます。「難民の地位に関する条約」によれば、難民とは「人種、宗教、国籍もしくは特定の社会的集団の構成員であること又は政治的意見を理由に迫害を受けるおそれがあるという十分に理由のある恐怖を有するために、国籍国の外にいる者であつて、その国籍国の保護を受けることができないうものはそのような恐怖を有するためにその国籍国の保護を受けることを望まないもの及びこれらの事件の結果として常居所を有していた国の外にいる無国籍者であつて、当該常居所を有していた国に帰ることができないものまたはそのような恐怖を有するために当該常居所を有していた国に帰ることを望まないもの」のことを指しています。

二〇一五年、長期にわたる戦争、政治的混乱、基本的生活必需品の欠如、生命の危機、貧困などの絶望的な状況から逃げ出すために、アフガニスタン、パキスタン、中東の国々、そしてアフリカからの過去に例を見ない数の難民がヨー

ロッパやアメリカに押し寄せるといふ危機に世界は直面しました。シリアに隣接するトルコにはおよそ二五〇万人の世界最多の難民がおり、それとは別におよそ一〇〇万人の人々がヨーロッパへと逃れてきています。これはとても悲惨な状況です。

女性、子ども、老人などの社会的弱者が特に軍事的衝突の状況下において犠牲になりやすいことは広く知られています。国際法は一般市民の居住地域における戦闘行為を禁止することで、このような社会的弱者を守ろうとしてきました。しかしながら、過去五〇年に行われた多くの戦争は一般市民が住む都市部において行われてきたのです。テロリストたちは「人間の楯」として故意に一般市民の住む地域に紛れ込みながらテロ攻撃を行っています。戦争によって死亡した一般市民の数が、戦争によって死亡した兵士の数に対してどれくらいかの割合であるかを正確に知ることは容易ではありません。ですが、多くの一般市民が戦争に巻き込まれている状況から考えて、おそらく戦争によって死亡した一般市民、また戦争によって深刻な精神的な傷を負った一般市民はかなりの数に上ると考えてよいでしょう。

最新技術が投入されたイラクやアフガニスタンでの対テロ戦争では、新しい種類の肉体的および精神的な傷を生む結果となりました。PTSD（心的外傷後ストレス障害）は今や身近な問題となっています。なぜなら、これらの戦争に従軍した多くの帰還兵が本人も家族も理解することができない心身の不調を訴えているからです。PTSDは任務において肉体的および精神的な外傷を受けることによって引き起こされます。PTSDを患っている帰還兵はトラウマ化された体験に絶えず悩まされ、眠ることができず、人間関係を築くことも、新しい環境に適応することもできないのです。メイヨー・クリニックによれば、PTSDとは「精神的衝撃を与える出来事を体験もしくは目撃したことが原因で引き起こされる精神的外傷のことであり、PTSDの症状にはトラウマ体験の記憶が呼び起こされるフラッシュバック、悪夢、極度の不安、思考制御不能などがある」のです。

精神衛生の専門家は戦争による「心的外傷」に苦しむ患者を治療する方法を見つけ出す必要に迫られています。

PTSDに苦しむ帰還兵の数が非常に多く、治療に長い時間を要することを考慮するとき、これがどれほど重大な問題なのかがわかると思います。政府はこのような外傷を負った帰還兵に対して医療的ケアを提供しなければなりません。しかし、その一方で、戦争に巻き込まれ、心身に外傷を受けた一般市民に対する治療や社会復帰の働きはごくわずかしかありません。イラクとシリアに住む女性、子ども、老人のすべてが戦火の中に取り残されたと仮定しましょう。彼らもまたPTSDに苦しむことになりませんが、彼らは健康を回復するための治療を受けることはできないのです。

この講演では、キリスト者が決して無視することができないこれらの人為的な危機に焦点を合わせて共に考えていきたいと思えます。私たちはこれらの問題に対して、愛と共に、癒しをもたらすための専門的支援によって応答するように召されています。この講演の目的は、これらの状況において効果的に対応できるように訓練を受け、備えるように皆さんを励ますことにあります。

この講演の一貫したテーマは「トラウマ」です。トラウマは（a）生体組織の損傷、（b）精神的ストレスおよび身体的外傷に起因する精神疾患および行動障害として定義されます^①。この定義が示す通り、トラウマは心身両面に対し、あるいはその両方が組み合わされて起こります。トラウマは日常生活や生活状態に深刻な影響を及ぼします。戦争や国家的暴力または自然災害によってトラウマを受けた人々を支援していく必要性はかつてないほど高まっています。この必要に答えていくことは、キリスト者にとって仕えるための良い機会であると同時に、私たちキリスト者が担っていないかなければならない責任でもあるのです^②。

二〇一〇年ハイチ大地震⁽³⁾

二〇一〇年一月のハイチ大地震から間もなくして、マイアミ大学の医療チームが負傷者の治療のためにポルトープランス（ハイチの首都）に設営された仮設診療所に到着しました。三人の外科医と一人の理学療法士からなるこの医療チームは次のような経験をしたと報告しています。

- 「現場はまるで戦地のようでした。大きなテントが四つ設営され、その中には簡易ベッドが列になって並べられ、その上に患者たちが横たわっていました。それぞれのテントには一二人の患者がおり、すべての人が負傷し、人々は圧迫による損傷を受け、傷口は開き、骨が折れた状態でした……。」
- 「気温は三〇度（℃）、蚊が至る所に飛んでおり、腐敗臭が漂っていました……。」
- 「水道水はなく、トイレは使えない状態でした……。そこには私たちの想像をはるかに超えた悲惨な現実があったのです。私たち全員が医師として無力であることに愕然としました。」

一人の外科医が続けて言いました。「その時、あることが起こったのです。夜の九時くらいだったと思います。私たちは三六時間一睡もせずに、患者たちの手当てをしていました」。

- 一人の男性がギターを抱えてテントに入ってきて来ると、椅子に腰を下ろし、歌い始めたのです。

●ひとり、またひとりという具合に、簡易ベッドに横たわっている患者たちが、ギターの男性と一緒に歌い出しました。その歌声は徐々に大きくなり、テントの中にいたすべての人が歌い始めたのです。

●トラウマの悲痛は歌声によって鎮められていきました。この大合唱はポルトーフランスの町全体を包み込んでしまったかのように響きわたりました。

●人々はテントの中心部分に集まって来ると、踊り始めました。ベッドから起き上がることができない人々は、歌を口ずさんでいました。

●一人の少年は痛みのために立ち上がることができずにはいましたが、母親がその少年を助け起こし、片足で踊れるようにしてあげました。

●「私たちは通訳者に『何を歌っているのか』と訊ねました。人々は『イエスに感謝を！ 主は我らを愛し給う！ イエスに感謝を！ 主は我らを愛し給う！』と歌っていたのです。」

●「雷に打たれたような気がしました！ 人々が喜びと幸せに包まれていくのを目のあたりにしたからです。これが転換点となったのです。すべてのことがこの出来事を転機として変わり始めたのです。人生の最悪の状況にある人々が、残されたものに感謝を捧げる姿に私たちは謙虚な思いにさせられました。」

理学療法士は続けて言いました。「この時私は決心したのです。このような人間の勇ましい姿を目のあたりにした以上、ハイチの復興のために粉骨砕身働こうと決めたのです。」

●「負傷した人々は、彼らの苦しみ、彼らの持つ強さ、そして彼らの内にある信仰について私たちに教えてくれました。」

- 「あの場所にいた人々の中で何の感化も受けなかった人はいないと思います。」
- 「私は仕事を辞め、母国を離れ、今はハイチに住み、非営利団体であるパートナーズ・イン・ヘルス (Partners in Health) で働いています。」

苦難の真只中においてできえ、信仰を持つ人々には主に賛美を捧げる機会が訪れるのです。賛美を捧げるためにはテントの中に信仰者が必要であり、また片足で立てるように助け起こしてくれる人が必要です。そして、私たちはキリストから与えられた内なる光によって互いに照らし合う必要があるのです。

ロサンゼルス⁽⁴⁾

一九七〇年代の初頭、メアリーは大学を卒業してから一〇日目に、暴力と貧困が蔓延したロサンゼルスのある町で活動しているグループに加わりました。メアリーはそのグループの仲間と一緒に低所得者層が密集して住むスラム街で暮らし始めました。引越してきてからまだ間もないある晩、メアリーたちの家のガレージから怪しい物音が聞こえてきました。メアリーはすぐさま警察に通報しました。しかし、そのメアリーの行動に対して、ある近隣の住民は怒りをあらわにしました。メアリーのガレージに泥棒に入ったのは、その近隣の住民の子どもたちだったからです。彼らの子どもたちを警察に通報したことで、メアリーたちはその住民の敵となってしまうのです。その住民はメアリーたちを脅し、この近隣界隈から出ていくように要求したのです。

ロサンゼルスのスラム街で生活することは、カルチャー・ショックを伴う非常に挑戦的な経験です。メアリーはどう

したらよいかわかりませんでした。混乱と恐怖の中で、彼女は神様にこれ以上口サンゼルスに住み続けることはできないと祈りました。彼女はすぐさま母国カナダのアルバータ州にある故郷に帰ろうと考えました。その時、メアリーは神様が語りかける声を聞いたのです。「彼らはあなたに危害を加えることはできない」。神様はまた言われました。「あなたは平和を創り出すことはできない。平和は賜物であり、聖霊の実なのだ」。これらの言葉が自分に語られた神様の言葉であるとメアリーは悟りました。そしてこの出来事が彼女の働きの土台となったのです。メアリーは少しずつ他者に対して平和の手を差し伸べることを意味を学んでいきました。他者の内に平和を創り出すことができるのは、人間の力ではなく、ただ聖霊の働きによることを学んでいったのです。この霊的洞察は一八年間に及ぶ彼女の働きを支え続けました。

数年後、メアリーは二人の若い女性たちと知り合いになりました。そのすべての女性たちは厳しい生活状況の中にありました。メアリーはその女性たちと一緒に一枚の大きな紙を囲んで座り、その紙の上に十字架を描きました。それから、彼女は「苦難の僕」について記されているイザヤ書五三章を読み始めました。

- さげすまれ、人々からのけ者にされ
- 悲しみの人で病を知っており
- 見栄えもなかった

メアリーがふと女性たちの顔に目をやると、女性たちが自分たちとイザヤ書に記されているメシアとの間に強い結びつきを見出していることがわかりました。メアリーはイザヤ書を読み進める中で、「苦難の僕が私たちの病を負い、私たちの痛みを担い、私たちのそむきの罪のために刺し通されたこと」を強調しました。⁽⁵⁾その後、メアリーはイエスを

「苦難の僕」と結びつけているペテロの第一の手紙二章二四節を読み上げました。メアリーは彼女たちに自分たちの苦しみと悲しみをイエスに担っていただき、自分たちが犯した罪と彼女たちに対してなされた罪による傷を癒してもらおうようにと語りかけました。⁽⁶⁾そして、女性たちに自分が抱えている苦しみや悲しみを紙に描かれた十字架の上に書き出すように促しました。女性たちはすぐさま膝をかかめ、その十字架の上に次々と書き始めました。

- 「KKKが私たちの庭で十字架を燃やした」⁽⁷⁾
- 「養父にレイプされた」
- 「叔父に性的ないたずらをされた」
- 「母親が私を信じてくれなかった」
- 「学校の先生に濡れ衣を着せられた」
- 「お店で万引きの疑いをかけられた」
- 「白人のクラスメートからパーティーに招待されなかった」
- 「兄弟が殺された」
- 「見捨てられた」、「拒絶された」、「馬鹿にされた」、「ブスと言われた」、「仲間外れにされた」、「無視された」

メアリーによれば、「十字架の上には三〇〇を超える彼女たちの苦しみが書き込まれた」とのことでした。⁽⁸⁾女性たちはこれらのことに対して怒りと悲しみの感情を抱いていました。その女性たちの幾人かは、過去のつらい出来事を十字架に置き、イエスが彼女たちの重荷を担い、彼女たちの痛みと苦しみを取り除いてくださったことを信じたのです。⁽⁹⁾「キリストが担われた苦難が、彼女たちの耐え難い苦しみに語りかけてくるのを女性たちは感じたのです」。そして、彼

私たちは救いの道へと入っていったのです。

メアリーの家を訪れた近所の人々が、彼女の家で初めて「平和」を感じたと話すのを聞いてメアリーは驚きました。彼らの自宅や地域は恐怖と暴力の闇に支配されており、そんな彼女にとってメアリーの家は唯一平和を感じることができるところであったからです。メアリーの家での平和の体験は、人々がイエスにある新しい命の道を歩み始めるきっかけとなっていました。

戦争によるトラウマを癒すために用いられる聖書

一九九〇年代のアフリカの国々において、聖書翻訳に携わる宣教師たちは戦争のゆえに苦しむ何千人もの人々を目のあたりにしました。これらの人々は民族紛争ないし国家間の戦争の犠牲者でした。暴力と戦争によるトラウマを癒すために教会が用いることができる聖書に基づく適切な書物を見つけることは困難でした。そのような状況において、リアン・ロイドの『民族対立による傷の癒し——癒し、赦し、和解における教会の役割』(Healing the Wounds of Ethnic Conflict: The Role of the Church in Healing, Forgiveness, and Reconciliation)⁽¹⁾はこの問題と向き合っていく上での貴重な手がかりとなりました。

ある聖書翻訳のチーム(SIL)は『トラウマの癒し』(Healing the Wounds of Trauma)と『子どもたちのトラウマの癒し』(Healing Children's Wounds of Trauma)という二冊の基礎的な手引書を作成しました。この二冊の手引書は大人や子どもが戦争で経験した悲惨な出来事を乗り越えていくために広く用いられました。この手引書は聖書とキリスト教的実践に見られる豊かな事例から、暴力を受けた被害者たちが抱える最も基本的な問いについて記されています。

「悪いことが私に起きるのはなぜなのか」。「神様が私を愛していることをどのように確信することができるのか」。「私に危害を加えた人をどのように許すことができるのか」。「争いに対してキリスト者はどのように対処していくべきなのか」。聖書はこれらの問いに答えるための豊かな源泉です。例えば、詩篇一五〇篇の内の六七篇は嘆きの詩篇であり、それらは不当な苦しみや扱いを受けたことに対する嘆きの歌です。トラウマを持つすべての人は、悲しみ、喪失感、怒りと向き合う機会を持つ必要があります、そのことによってそれらの重荷から解放され、新しくされるのです。

トラウマの癒しにおける音楽の貢献

トラウマの癒しにおける音楽やその他の芸術表現の役割についての理解は深まりつつあります。ウエンディ・エイトケン¹¹は「演奏や視覚的な芸術表現と聖書の御言葉を組み合わせる方法はトラウマ体験を持つ人々の心的および霊的な傷の癒しを促進する力がある」と指摘しています。二〇〇九年、ジョゼフ・コニーが率いる神の抵抗軍 (Lord's Resistance Army) による残忍な攻撃によって、多くのコンゴ人が中央アフリカ共和国の北部へ逃げました。逃れてきたすべての人たちは受けた苦しみによってトラウマを負っていました。

しかし、これらのコンゴ人難民が安全な地域に無事避難することができたと感じたとき、彼らの芸術的衝動が呼び覚まされたのです。「男性たちは数世紀にわたって女性たちが脱穀するために用いてきた道具やキャツバを製粉するための道具を作り始めた。それらの家庭用具には芸術的な線や焼き目による模様が施された。青年たちは伝統的な麦わら帽子を作った。〔中略〕音楽はコンゴ人難民たちが受けたトラウマを癒していく上での中心的な手助けとしての役割を担った。福音派教会の奏楽者たちは、難民たちの教会生活を維持するための重要な役割を果たした。〔中略〕大多数の

難民が到着してから二週間が経った日曜日の朝、難民キャンプで感謝礼拝が捧げられた。三時間に及ぶ長い礼拝を通して、悲しみは音楽と共に希望と混じり合っていた。「中略」聖書の御言葉に基づいた賛美は、礼拝参加者たちの思いを神の守りと備えに向けさせ、彼らが直面したトラウマに立ち向かう力となった⁽¹²⁾。数カ月後、賛美歌を作るワークショップが開催されました。毎晩、参加者たちは聖書の御言葉に基づいて、愛する人々を失った悲しみ、罪や悪に対する嘆き、解放されたことへの感謝、そして神の恵みと誠実への感謝を主題とした賛美歌を作ったのです。礼拝は人々の希望を刷新し、新たな土地で生活を再建するための活力を彼らに与えました。

修復的司法

マスコミによって取り上げられることはめったにありませんが、多くの国々に存在する人為的災害は刑事司法制度の腐敗と機能不全によって引き起こされています。現在、世界中で非常に多くの人々が非人道的な状態で投獄されています。犯罪者に罰を与えるという方法は、犯した罪に対して報復を行うという狭い視野に囚われています⁽¹³⁾。

一九七〇年代の初期以降、「修復的司法」の運動は近代社会が法的および社会的規範から逸脱した人々に対する対処の原則に一石を投じてきました。ほとんどの社会における刑事司法制度は、罪を犯した人々が社会の一員としての責任と役割を担うことができるように回復する道があるかに焦点を合わせるのではなく、犯罪者に罰を与えることを目的としています。

「修復的司法」を取り入れるべきであるという呼びかけは、聖書に基づいています。聖書的な正義について精力的に研究を続けてきた新約学者のクリス・マーシャルは、正義の問題は聖書全体を通して語られていると指摘しています。

マーシャルによれば、「聖書において性的な罪に関する主要な用語は九〇回しか出てこないのに対し、正義を意味する主要なヘブル語とギリシャ語は一〇〇回以上も出てくる」¹⁴のです。この豊かで複雑な概念は、シャローム、契約、律法、行いと報い、そして贖いと赦しを含む思想を基盤としています。神の救いの目的は、神の創造を回復することであり、罪によって道を誤った人々を正しい道へと連れ戻すことなのです。それとは対照的に、人間の正義は、犯罪者に罰を与えること、すなわち犯した罪に対して報いを与えることに焦点が当てられています。

聖書に基づく修復的司法のビジョンは世俗的な刑事司法制度の代替案として一九七〇年の中期にアメリカで展開された「被害者―加害者和解プログラム」(Victim Offender Reconciliation Program: VORP)として実を結びました。それ以降、VORPは他の国々において現在の犯罪司法制度の代替モデルとして紹介されてきました。VORPが掲げる目標に共感した裁判所は、和解と償いの過程を監督する責任をVORPに委ねることができません。そのような介入を通して、被害者と加害者の両者が益を得ることを目指しています。被害者は誠意ある謝罪を加害者から受けることができ、加害者は自分が犯した罪を認識し、罪を償うための過程に全力を尽くすこととなります。例えば、窃盗罪の場合、加害者は盗んだものに対する具体的な賠償を行います。VORPの管理官は罪の償いが終わるまでその過程を監督します。このような手続きが誠実に実施された場合、その結果として被害者と加害者の両者が益を得ることになります。加えて、社会もまた被害者が社会の有益な責任ある一員として社会復帰することで益を被ることになります。

VORPはアメリカの裁判所の管轄の下に犯罪の被害者と加害者を繋ぐ管理者となる承認を得ています。当然、すべての当事者がこのプログラムに参加することに同意する必要があります。VORPは「修復的」司法の有効性を実証し続けています。しかしながら、世界的に修復的司法の担い手の数は限られており、より多くの担い手が必要とされているのです。

修復的司法は、家族を殺害されるというような深刻な犯罪の被害者たちに対し、自分たちで癒しと希望を見出すため

の新しい道を提供しています。被害者の家族は当然のことながら深刻な問いと格闘します。「私たちは本当に加害者を許すことができるのだろうか」。「私たちは私たちの悲しみとその記憶にどのように向き合っていくことができるのだろうか」。「犯罪被害の体験をこえて——生きる意味の再発見』(Transcending: Reflections of Crime Victims)において、愛する家族を非業の死で失った母親や父親また兄弟たちの心の旅路の記録が収録されています。赦しは犠牲を要する非常に難しい行為です。それは時間を要します。ある母親は彼女自身の葛藤について力強く語っています。「私はとてつもない激しい怒りを抱いていました。ですが、私に危害を加えた相手と向き合ったとき、その加害者に対して『目には目を』の報復を願ってはいないことに気がつきました。なぜなら、もしそのようにするならば、すべての人の目はえぐり出されなくてはならず、それではすべての人が盲目になってしまうからです。どこかで報復の連鎖を止めなければなりません。それこそが愛の使命です。心の痛みを乗り越え、よりたくさんさんの愛を生み出していくことが大切なのです。そうでないなら、私たちは暴力の連鎖を繰り返すことになるからです」⁽¹⁶⁾。これは神が御子の十字架によって私たちのために成し遂げてくださったことなのです。私たちが神の憐れみの愛を拒絶したにもかかわらず、神は決してご自身の愛を私たちから取り上げることはないのです。どのような場所で災害が起こったとしても、私たちの使命はこの神の愛を言葉と行いによって証していくことなのです。

注

- (1) *Merriam Webster's Collegiate Dictionary*
- (2) C. Yoder, *Trauma Healing* を参照。
- (3) J. Nelson Kraybill によって文章化された音声データ。
- (4) Mary Thiessen Nation, "Jesus Our Peace," in eds. Kraybill and Shenk, pp. 171–83.
- (5) *Ibid.*, p. 174.
- (6) *Ibid.*
- (7) KKK はクー・クラックス・クラン (Ku Klux Klan) の略称。白人至上主義団体。
- (8) *Ibid.*
- (9) *Ibid.*, p. 175.
- (10) Rhiannon Lloyd, *Healing the Wounds*.
- (11) W. Atkins, "Song Writing."
- (12) *Ibid.* 音楽セラピーの効果の例としては以下の文献を参照。Laurie Williams, "Haiti's Unending Song," p. 330; Roger W. Lowther, "The Aroma of Beauty: Music in Disaster Relief," pp. 281–82 in Kraybill, ed., *Worship and Mission*.
- (13) 最新の議論については以下の文献を参照。H. Zehr, *Changing Lenses*, ch. 1–6; Zehr, *The Little Book of Restorative Justice*. これは修復的司法の運動を推進するパイオニアの一人である。
- (14) C. Marshall, *The Little Book of Biblical Justice*, pp. 10–11. 加えて Marshall, *Beyond Retribution: Compassionate Justice* を参照。
- (15) Zehr, *Transcending*, p. 119.

引用文献

- Atkins, Wendy. "Arts and Healing Trauma," *Orality Journal* 5:1 (2016): 97–102.
- Hill, Harriet, Margaret Hill, Richard Baggé, and Pat Miersma. *Healing the Wounds of Trauma*. American Bible Society, rev. ed., 2013.
- . *Healing Children's Wounds of Trauma*. American Bible Society, rev. ed., 2013.
- Krabill, James R. and David W. Shenk, eds. *Jesus Matters*. Herald Press, 2009.
- Krabill, James R., ed. *Worship and Mission for the Global Church: An Ethnodoxology Handbook*. William Carey Library, 2013.
- Lloyd, Rhannon. *Healing the Wounds of Ethnic Conflict*. Mercy Ministries International, 2011.
- Marshall, Chris. *The Little Book of Biblical Justice*. Good Books, 2005.
- Marshall, Christopher D. *Beyond Retribution: A New Testament Vision for Justice, Crime and Punishment*. Eerdmans, 2001.
- . *Compassionate Justice*. Cascade Books, 2012.
- Yoder, Carolyn. *The Little Book of Trauma Healing*. Good Books, 2005.
- Zehr, Howard. *The Little Book of Restorative Justice*. Good Books, 2002.
- . *Changing Lenses: Restorative Justice for Our Times*. Herald Press, rev. ed., 2015.
- . *Transcending: Reflections of Crime Victims*. Good Books, 2001.